無責任エッセー

# 旅のハジの書き捨て

福峙かずたろう

うーん、寝てしまったね。瀬戸大橋を渡り終えたあたりから記憶が飛んでいる。もう岡山の手前だもんね。車内は学生サラリーマンで満員だもんね。混んでますよ。こんな中で私は口を開けて寝ていたわけやね。あー気持ち良かった。目覚めスッキリ！

さて、時刻は午前８時すこし前。岡山からは総社行きの列車に乗る。吉備津の釜で有名な吉備津神社を沿線に持つ吉備線に乗るのだ。この線に乗るのは初めてである。

さて、もうそろそろお気づきであろうが、実は（と言うほどでもないが）この旅の目的のひとつは「のりつぶし」である。「海苔潰し」ではないぞ。「乗り潰し」である。つまり、「全国の鉄道路線を一生の間に全て乗ってやろやないけ！」という、いかにも閉鎖的で自慰的で退屈で、こんなもんやってらんないよなっ！ってな趣味なのだ。

実はこういう趣味があったのだ。

大体どんな奴がこういうクライ事をやっとるかと言うと、まぁ子供のころ一度くらいはいじめられた経験があって、学生時代は体育が苦手で、かと言って他の教科がデキルかというと別段そういう訳でもなくて、小学中学高校大学となんとなぁく生きてきてしまったなぁ、と言う感じの人たちが多いのだ（多分ね）。彼らはあまり洗練されているとは言えない服装で、中肉中背から少し太り気味で、眼鏡をかけ、人のことをものすごく警戒した眼つきで見るのだ。過去に私はこういった人間を旅の先々で見るにつけ、嫌悪感と抱くのが常だったのだ。そして、彼らに嫌悪感を抱く自分が嫌で（なぜならば*彼らは*、*私の分身*であり、*将来の姿を映す鏡*でもあったのだ）、しばらくの間、こういった目的の旅行は控えていたのだ。

ということなんで、まぁ久々の乗り潰し旅行なのである。最近あまりに天気がいいので、ふと出てきてしまったようだ。しかし我ながら、平日に気まぐれで旅行に出れるなんて、イイ身分だなぁ。

吉備線は退屈だった。列車に乗っているだけでは、周りに何があるのか、よく分からない。唯一、駅のプラットホームにある駅周辺のみどころ紹介で、うかがい知る事が出来る程度である。

備中高松駅では、最上稲荷とかいうものがあって、それが日本三大稲荷の一つだという。たしかに車窓からも不必要に大きな鳥居が見えた。しかし、信仰の対

象とはいえ、こういう事に金を使うのは、ほとほと呆れる。九州の霧島神宮もそうだったが、金属かコンクリか知らないが、ただ大きいだけの鳥居に何の意味があるのだろうか。これならばまだ、大仏や自由の女神や太陽の塔や通天閣やツイン21の方が、人々がその中に入って外を眺められるだけ、マシというものだ。という批判的な感情をぶつけられつつ、大鳥居は車窓から後方へ姿を消した。

総社についた。岡山行きの列車まで少し時間があったので、駅前をぶらついた。ＪＲは余剰人員対策か、ＣＡＩ学習塾を開いていた。ＣＡＩとは、Computer assisted instruction の略で、要はコンピューターを使ったプログラム学習である。こんなものはそう簡単に出来るものでもないと思うが、それを大手の受験産業を差し置いて、新参のＪＲがやってしまうとは。ベンチャー的といえば聞こえが良いが、まぁ、破滅を予感させるものがある。
しかし、岡山の受験生はみんな進研ゼミをやっていると思っていたのに。

倉敷で、西行きの列車を待つ間に、パンとコーヒーを食う。旅行中はほんとに、いくらでも食えるなぁ。もともと、食物の摂取は大好きだしなぁ。あまり消化とか排出には興味は無いんだけどね。
う～ん、無責任やなぁ。

などと言いつつ、第三回おわり